

平成30年度上半期学校評価・学校生活・自己評価アンケートの結果と分析

平成30年10月15日

京都市立嵐山東小学校

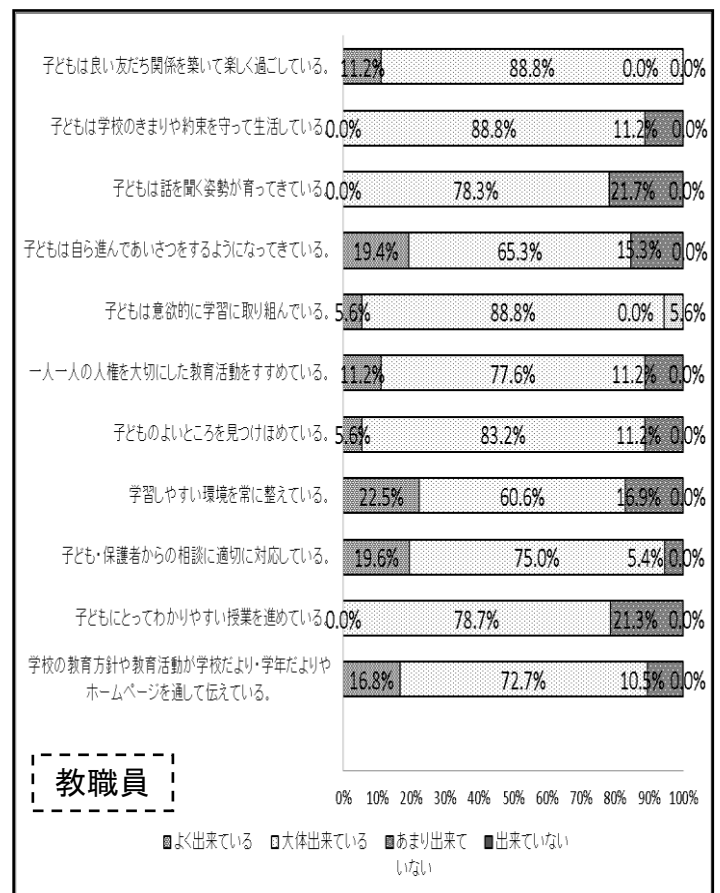
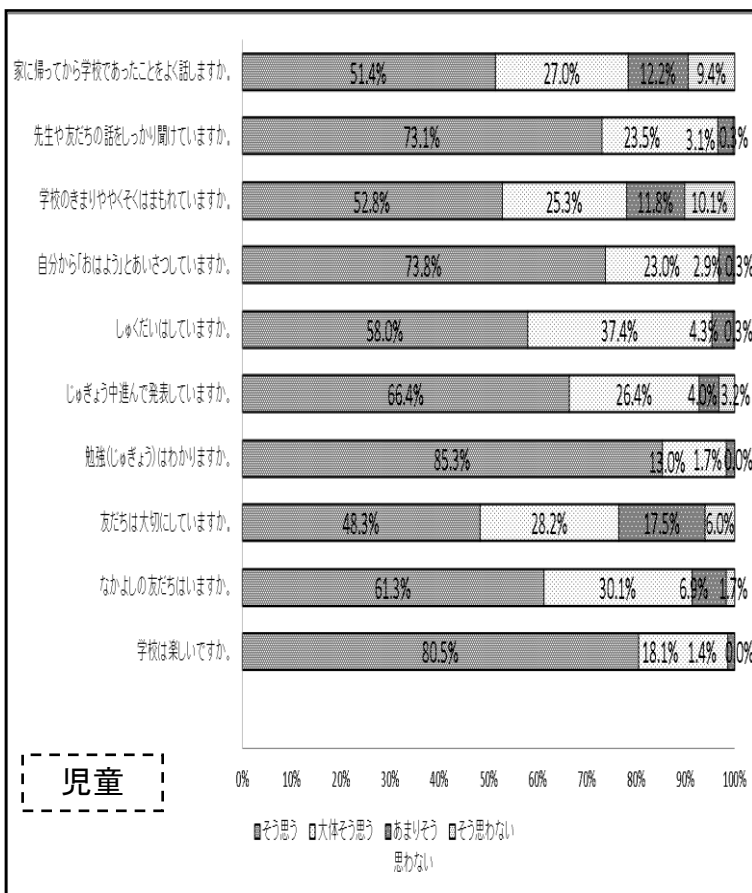
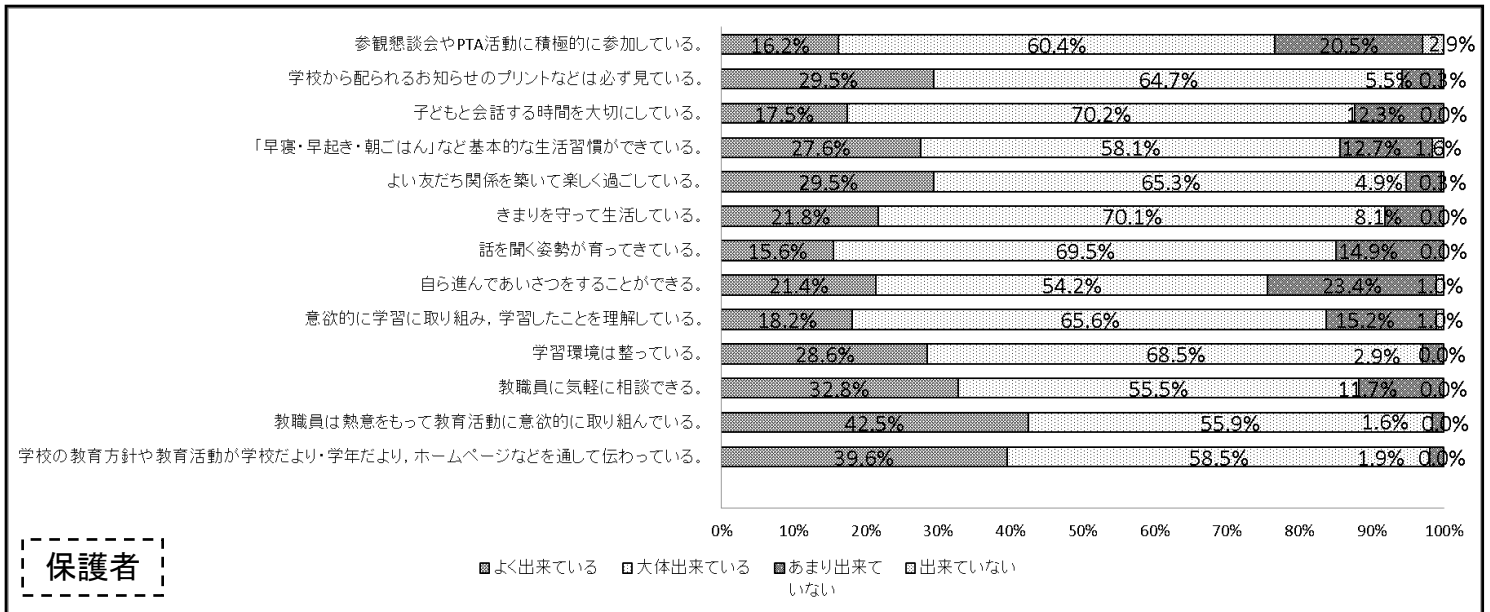
校長 河野 由佳

1. はじめに

上半期学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございます。児童数321名（アンケート実施当時）に対して、保護者の回答数が308件（回収率約96%）だった結果から、今年度も保護者の皆様の学校に対する関心の高さと期待の大きさが伺えます。

アンケート実施と同時期に、子どもたちには学校生活アンケート、教職員には自己評価アンケートを実施しました。それらの結果が、このページの3つの棒グラフになります。結果と保護者の方々の自由記述から、分析し報告させていただきます。

2. 結果



3. 分析

1) 学習面

- 勉強（じゅぎょう）はわかりますか。（児童）
- 意欲的に学習に取り組み、学習したことを理解している。（保護者）
- 子どもにとってわかりやすい授業を進めている。（教職員）

保護者の16.2%が学習したことをあまり理解出来ていない・出来ていないと回答しているのに対し、児童であまりわからないと答えた割合は、1.7%（わからないは0%）となっています。また、教職員の21.3%が子どもにとってわかりやすい授業をあまり進められていないと回答しています。よく出来ていると回答した教職員は0%であり、現状に満足せず、日々の教材研究に勤しんでいる様子が伺えます。

保護者の自由記述からも「毎日の授業のノートや家庭学習など、いつでもしっかり見ていただいています。低学年の時期に基礎・基本を教えていただくことはとても大切なことだと思っております。」や「家庭学習に自主学習が加わり、何を書くのか、自主的に勉強したいことが発案できるのか、母親として心配していました。ところが、予想以上にノートに書きたい内容が思い浮かぶようで、聞くと英語や国旗や漢字…今後のテストの予習など多くの案があつて、自主学習が楽しみと話してきました。」「授業参観がとても楽しみです。子どもたちが自ら答えや解き方などを導きだして行く様子に親もついひきこまれます。先生の準備や指導なくしては、できないことだと思います。」など、保護者の方が授業や家庭学習に関心をもっておられることがわかります。

これからも子どもにとってわかりやすい授業づくりに日々努め、そこに外部講師を招いて“ホンモノ”に触れる機会をできるだけ作り、学力定着とともに視野をさらに広げる取組をしていきます。

2) 生活面

- 学校のきまりややくそくはまもれていますか。（児童）
- きまりを守って生活している。（保護者）
- 子どもは学校のきまりや約束を守って生活している。（教職員）

保護者の8.1%、教職員の11.2%があまり出来ていない（出来ていないは0%）と回答しているのに対して、あまりそう思わない・そう思わないと回答している児童の割合が21.9%となっています。5・6年生の計画委員や3年生以上の代表委員が中心となって、はきものをそろえるなどの毎月の生活目標実現に向けた取組を行っていることや各クラスの規範意識の向上によって、児童のこの項目に対する達成基準が上がったためではないかと考えます。

保護者の方からも、「ルール・きまりは気にして行動しています。きっと学校で先生方やお友だちに受け入れてもらって、信用して安心して、居場所があるのだと思います。」という記述がありました。周囲の人に大切にされている、支えられている、認められているという実感をもたせることが規範意識を高めるための土台になると考えています。これからも子どもたちの実態から課題を見つけ、あらゆる教育活動を通して、子どもたちの規範意識を育むための取組を進めていきます。

3) 安全対応（保護者の自由記述の中で最も多かった内容）

「学校ホームページで地震や大雨の時の対応がすぐ確認できてよかった。」などの記述の一方で、「地震の時の対応が遅かった。」など改善を求める記述もありました。毎年いろいろな場面を想定して避難訓練を行っているのですが、全児童が学校内にいることを前提としています。6月18日の地震のような登校中など、多様な場面を想定した準備が必要だと今回感じました。ご意見ありがとうございました。

4. さいごに

4月17日に6年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」では、全教科（国語・算数・理科）で全国平均を上回りました。これからも学力定着とともに一人一人の課題にも目を向け、教職員一丸となってその解決に精進していきます。今後ともご支援・ご協力よろしく申し上げます。